

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 13-004
 担当 榎原
 内線等 333

PDCA	事務事業名	環境保全事業	部課等名	市民経済部 環境課			
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 1. 地球・地域環境の保全 単位施策： (2) 地域環境保全 個別施策： ①公害防止					
	根拠法令等	騒音規制法、振動規制法、半田市環境保全条例					
	対象・目的	市民の良好な生活環境を維持するため、地球及び地域環境の保全を図る					
	目的を達成するための手段・活動内容	大気・水質・騒音等の一般環境汚染状況を把握するため、定期的に環境測定を実施する。環境保全協定締結事業所へは立入検査を実施し、各施設の管理状況等について確認を行う。地域猫活動を推進し、生活環境保全のための野良猫対策に努める。環境基本計画の着実な推進を図るとともに市民や事業所、有識者の意見を政策に反映させるため、はんだ環境パートナーシップ会議を行う。					
	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	大気汚染常時監視想定項目数	4	4	4	項目	
		公共用水域水質測定回数	232	232	232	回	
		環境保全協定締結事業所等立入検査回数	7	10	10	回	
		事業費	6,571	6,653	5,852	千円	
		人件費	9,518	12,305	12,110	千円	
		総事業費	16,089	18,958	17,962	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
		環境保全事業に係る市民1人当たりのコスト	136	158	150	円	
		大気汚染常時監視に係る市民1人当たりのコスト	20	14	17	円	
		公共用水域水質分析に係る市民1人あたりのコスト	19	20	16	円	
	成果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		大気汚染物質に係る環境基準達成物質数	実績値	4/4	3/4	4/4	物質
			目標値	4/4	4/4	4/4	
		市内河川に係るBOD基準達成河川数	実績値	3/5	2/5	3/5	河川
			目標値	5/5	5/5	5/5	
協定締結事業所への調査実施件数		実績値	—	10/39	10/41	件	
	目標値	—	10/39	10/39			
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性	効率性			
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ない			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ない				
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 —			
A 課題解決のための目標	事業の評価・課題	C 大気の常時監視や公共水域の水質調査等により、市内の生活環境が概ね良好であることが確認できた。また、市民が市内の河川等の身近な水環境の実態を知ることができるよう、公共水域の水質調査結果を市ホームページに掲載した。令和元年度には、新たに3件の事業所と環境保全協定を締結することができた。地域猫活動については、新たに、公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業(行政枠)」を活用することで、任坊山公園や十ヶ川周辺など、5つの地区において個人で活動するボランティアの支援を行った。その結果、12匹に対して不妊去勢手術を実施し、野良猫の増加を抑制した。					
	今後の事業の方向性	改善推進 環境パートナーシップ会議等で特に指摘を受けている矢勝川の水質については、令和2年度の水質調査委託において調査地点を増やすなどにより、汚濁源の把握に努める。原因分析には専門的な知識や技術が必要となることも考えられるため、専門機関への調査分析の委託についても検討する。汚濁源が確認された場合は、関係機関と協議して原因を除去するよう努める。事業拡大を行う事業所や新規に立地する事業所に対しては、環境保全協定の締結を呼び掛ける。締結後は、定期的に立ち入り調査を実施し、協定項目が遵守されているかどうかを調査する。また、「ゼロカーボンシティ」を表明したため、環境保全協定締結事業者に対しても、積極的にゼロカーボンへの協力を働き掛けていく。地域猫活動については、活動を行うボランティア団体・個人の市への登録制度を設けるとともに、活動地域を拡大していく。					
令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位				
	環境保全協定締結事業所への立ち入り調査実施件数	10	件				
	市内河川に係るBOD数値の環境基準達成率(調査河川数：5)	100	%				
	地域猫活動を行うボランティア数	13	人				